

<評価の基準> A. 十分達成されている B. 達成されている C. 取組んだが成果が十分でない
D. 取組みが不十分である

1 保育理念・保育計画		評価
①	施設の保育理念・保育方針など理解している。また、建学の精神にあるキリスト教の理念を理解し、共感している	B
②	保育方針を基に全体的な計画が作られている。	B
③	保育理念や保育方針を定期的に確認している。	B
④	乳児の発達を理解し保育計画を作成している。	B
⑤	保育計画は子どもの実態にあわせて自由に変更できるような順応性のあるものになっている。	B
⑥	自分の保育の内容や保育計画の評価・反省をおこない次に活かせるようにしている。	B
<p>・保育理念や年間計画を見直し、子どもの様子に合わせ月案週案を作成した。日誌を通して毎日振り返りを行うことで今後の保育に活かせるよう努めた。</p> <p>・乳幼児期は人格形成の土台であることを常に意識し、ひとりひとりの子どもの可能性を伸ばせる保育を心掛けた。</p> <p>・まずは心の安定を重視していった。</p>		
2 乳児への対応		評価
①	登園時には子どもの様子をよく観察して、体調が悪くないかどうかを確認している	A
②	事故やけがが発生した際は適切な処置対応ができる体制が整っている。	A
③	一人ひとりの子どもをよく観察すると同時に、周囲にも目を配るようにしている	A
④	年齢や発達、個性や性格、特徴を踏まえ、また家庭環境、生育歴等を考慮した関わり方をしている	B
⑤	職員間で共通意識を持ち一人ひとりに応じた対応をしている。	B
<p>・ひとりひとり丁寧に関わる事を心掛けたが、仮園舎移動前後は自分たちも環境を整える事がなかなか難しく、整えるまでに時間を要した。今も模索中である。</p> <p>・看護師からの適切な対応の仕方を学ぶ機会が増えた。</p>		
3 環境・安全・食育		評価
①	一人ひとりが安心して過ごせる環境作りをしている。	B
②	乳児の発達や生活を見通して、安全で清潔感のある環境構成をしている	B
③	季節を意識し素材・用具など適切に活用している。	B
④	職員が健康・安全に対する認識を共有している。	B
⑤	地震・火災・不審者対応など緊急時に対応できる訓練を行い、乳児の安全を守る体制作りに取り組んでいる。	B
⑥	食育の重要性を理解し季節や年齢に合わせて食育計画を立てている。	B
⑦	栄養士・保育士が連携し食育を進めている。	C
<p>・仮園舎となり落ち着いた環境づくりに時間を要している。</p> <p>・不審者対応についてももう少し具体的な対応策を考え敏感でありたい。</p> <p>・調理師栄養士と連携し一人ひとりにあった食事を提供できるよう調整しているが、仮園舎となり、施設が離れ、連携し辛い面があり課題が残る。</p>		

4 保護者への対応・支援		評価
①	保護者に対して保育内容・子どもの様子がわかるように発信している。	B
②	保護者の状況・個人情報の漏洩に注意している。	A
③	保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談をしている	B
④	保護者の子育てを支え、喜びに共感するように心掛けている。	A
<p>・その日にあった子どものエピソードを伝えたり、傾聴も心掛けた。</p> <p>・今年1月土曜参観会と懇談会を行い、保護者の悩みや思いを聞いたり、園側の保育内容、職員の思いを伝え、互いに理解を深める良い機会となった。</p> <p>・園内の風通しを良くすることを心掛けた。</p> <p>・仮園舎となり、安全面の対策をどのように行っているかも聞いてもらう機会となった。</p> <p>・危険と思われる事や場面を気づいたときに記録するようにした。</p>		
5 地域の自然や社会とのかかわり		評価
①	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	B
②	地域の自然や公共施設などの環境を保育に活用している	B
③	地域の小学校の行事や公開事業に関心をもっている	C
④	施設の子育て支援について内容を理解し取り組んでいる。	B
<p>・散歩を通して近隣の家との挨拶を交わし交流した。</p> <p>・小学校とは、なかなか連携し辛い面もあるが散歩のルートで通過してみる等交流を図っていききたい。</p> <p>・一時預かりを行い、子育て支援を少しずつ行っていくつある。</p>		
6 研修と研究		評価
①	研修は年計画に沿って実施している。	B
②	園内外の研修会や研究会は自己課題をもって参加している。	B
③	研修で学んだことを報告し合いお互いに学び合う機会を持っている。	B
④	施設や乳児の実態から課題を見つけ自主的に研究に繋げることができる。	B
<p>・オンライン研修等の参加が多かったが、子どもの発達を考えたり、改めて知識を得る良い機会となった。</p> <p>・今年度は不適切な保育について話し合うことが多く、保育の原点に戻り、子どもを尊重することを改めて意識した。</p> <p>・日々のミーティングを利用して研修で得た知識を職員で周知するようにしている。</p>		

静岡聖母幼稚園小規模保育いちご組の保育の質の向上を図るために自己評価を実施致しました。評価結果を公表し、評価の結果を踏まえ 今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

令和 5年 3月 15日

静岡聖母幼稚園 小規模保育事業

いちご組 園長 木林薫子

